

残胃癌の術前診断と術後診断の正誤率に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2018年10月16日～2028年12月31日

〔研究課題〕

残胃癌の術前診断と術後診断との正誤率の後向き調査研究

〔研究目的〕

残胃癌症例での術前診断の正誤率を調べます。残胃癌のうち進行癌には今後術前化学療法が行われると思われませんが、残胃癌に対してどの程度の診断誤差が起こるかわかっていません。早期癌に対して術前化学療法を行わないため、当院での診断正誤率を求め今後の医療に反映させようと研究を行います。

〔研究意義〕

一般に胃癌の深さ（深達度）の診断は困難で、術前進行癌と考えられた症例で術後に早期癌と判明した患者が12.3%も含まれていたと報告があります。胃切後の胃に発生する残胃癌においては術前に内視鏡検査及びCT画像で深達度診断を行っていますが残胃癌は胃を切った影響で術前深達度診断はさらに困難と予想されますが、実際は未だわかっていません。そのため当院で行われた残胃癌症例での診断正誤率を後向きに調べ報告します。

〔対象・研究方法〕

1994年から2018年の当院での残胃癌切除症例全例の52例の術前深達度および術後深達度のデータを収集し診断正誤率を求めます。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部外科学講座

〔個人情報の取り扱い〕

個人情報保護のため、臨床情報は個人を識別できる情報(氏名、住所、生年月日、電話番号など)を削除し、独自の記号を記し匿名化を行い研究を行う。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者: 深川 剛生

研究分担者: 清川 貴志、福島 亮治

帝京大学医学部附属病院 外科 教授 深川 剛生

住所〒173-8606 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) [内線 16646]